

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成25年7月18日(2013.7.18)

【公開番号】特開2013-657(P2013-657A)

【公開日】平成25年1月7日(2013.1.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-001

【出願番号】特願2011-134181(P2011-134181)

【国際特許分類】

B 01 D 25/12 (2006.01)

【F I】

B 01 D 25/12 G

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月31日(2013.5.31)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ろ板(9,9)間に挟持したろ布(10)で固液分離したろ液を、各ろ板(9)のろ液通路(25)を介して外側部に形成した排出路(26)に排出するフィルタープレス(15)において、

各ろ板(9)の外側端にろ液を検知する検知装置(1)を配設するとともに、

検知装置(1)を、

ろ液に接する端面に隔膜(3)を有し、

内部にピストン(7)と検知棒(6)を移動可能に内挿し、

外部から検知棒(6)の移動を目視可能に構成した

ことを特徴とするフィルタープレスにおけるろ布破損検知装置。

【請求項2】

前記ろ液通路(25)をろ板(9)の肉厚内に形成して、

ろ過室(21)と排出路(26)を連通させ、

検知装置(1)を排出路(26)のろ液通路(25)と対向する位置に配設した

ことを特徴とする請求項1に記載のフィルタープレスにおけるろ布破損検知装置。

【請求項3】

前記ろ液通路(25)をろ板(9)の肉厚内に形成して、

ろ過室(21)とろ板(9)の外側端を連通させ、

ろ液通路(25)に分岐路(29)を設けて排出路(26)に開口させ、

検知装置(1)をろ板(9)の外側端からろ液通路(25)に配設した

ことを特徴とする請求項1に記載のフィルタープレスにおけるろ布破損検知装置。

【請求項4】

前記検知装置(1)を頭部(4)を設けた中空のハウジング(2)で構成し、

ろ板(9)の外側端にろ液の排出路(26)に連通する検知孔(28)を形成して、

ハウジング(2)を検知孔(28)に螺着するとともに、

ハウジング(2)の頭部(4)に開孔(5)を設け、

排出路(26)に面するハウジング(2)の一端に隔膜(3)を張設し、

ハウジング(2)に検知棒(6)を有するピストン(7)を摺動自在に内挿して、

検知棒(6)の後端をハウジング(2)の頭部(4)から突出可能とした

ことを特徴とする請求項 1 ~ 3 の何れか 1 項に記載のフィルタープレスにおけるろ布破損検知装置。

【請求項 5】

前記検知棒 (6) の対向位置に遠隔検知装置 (30) を配設し、

検知棒 (6) の移動を感知すると、

警報装置が作動、あるいはフィルタープレス (15) の運転が停止する

ことを特徴とする請求項 1 ~ 4 の何れか 1 項に記載のフィルタープレスにおけるろ布破損検知装置。